



ふりかえりの目的は？

ふりかえりって、何のためにするんでしょう？木曜日の授業で、子どもたちに問いました。私のクラスの子たちは、「考えを広げるため」「これまでの自分と比べるため」「わかったこと・できたことを自分の言葉で整理するため」「目標を達成できたか確かめるため」などの意見が出てきました。そこから、具体的にどんなことをふりかえりに整理するとよいか、子どもたちと考えました。すると、「わかったことやポイントをまとめる」「前の自分と比べる」「仲間のよさについて」「次の授業でがんばりたいこと、ふかめたいこと」「まちがいそうになったこと」などをふりかえりに綴るとよいという意見にまとまりました。

自己調整学習を研究している塚野（2012）は、ふりかえりは子どもたちが次のようなことを行うと述べています。

①自己判断

- ・自己評価…設定した目標と比べて、どこまでできたか・何を学んだか・学び方は適切だったか評価する
- ・原因帰属…よかった点・うまくいかなかった点の原因を考える

②自己評価

- ・自己満足/感情…達成感や悔しさなどを次の意欲につなげる
- ・適応的決定…「次はこうしよう」と前向きな見通しを持つ

つまり、ふりかえりとは「今日の学びを評価・分析すること」、そして「次の学習に向けた見通しを持つこと」という2つで成り立っています。これらを教師が行うのではなく、子どもたちができるように場を設定したり、支えたりすることが大切となります。

そこで、「どんなことをふりかえったらいい？」と迷う子のために「モデル」を示すことなども手立てとして考えられます。また、文章で書くふりかえりだけではなく、「S…よくできた A…できた B…あまりできなかった」などの選択肢の活用、チェックリストの活用（線対称な図形を説明できますか？など）、ルーブリックの活用（自分の目指すゴールの選択）など、様々な方法も考えられます。

機械的に行う「ふりかえり」ではなく、子どもたちが自分事で「ふりかえり」が行える手立てや方法を交流し、学校全体で深めていきたいですね。

「てらとばラボ」開催

「学級づくりって、どうする？」「授業づくりうまくいかない」などの悩みを抱えていても、なかなか交流する時間が取れません。そこで、子どもたちの「らしさ」を「てらし・とばし・ひらく」ために気さくに悩みを交流したり、「次の一手」を考えたりする学びの場、「てらとばラボ」を開催します。参加は、自由。

第1回目は、5月15日（金）に15:45～16:15に6年3組で行います。

【内容】

- ・佐々木先生から算数の授業づくりの提案
- ・日頃のお悩み相談など

